

ナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)の概要

平成20年度予算案: 1,400百万円
(平成19年度予算額: 1,776百万円)

資料 3

必要性: ・ライフサイエンス研究の基礎・基盤であり、**生き物**であることから**継続的な事業**の実施が必要不可欠。
・基礎生物学、医学、薬学から新薬探索・先端医療などのバイオ産業に至る広範な範囲の研究に貢献。
・欧米は網羅的・戦略的な整備を目指しており、我が国も2010年までに世界最高水準のバイオリソースを整備。

事業の概要

実験動植物(マウス等)や各種細胞等のバイオリソースについて、継続的に収集・保存・提供を行うとともに、バイオリソースの所在情報等を提供する情報センター機能を強化する。さらに、バイオリソースの質の向上を目指し、保存技術等の技術開発、ゲノム等解析によるバイオリソースの付加価値向上等の時代の要請に応えたバイオリソースの整備を行う。

事業の進め方

1) バイオリソースの収集・保存・提供体制の充実

中核的拠点となる機関(中核機関)を整備、充実する。

2) 情報センターの機能強化

所在情報や遺伝子情報等のデータベースの構築、及びユーザーへの情報発信を行う。

3) バイオリソースの更なる品質向上のための開発

ゲノム解析等による付加価値向上や保存技術等の開発を行う。



ラット



藻類

収集・保存・提供体制の確立
(24のバイオリソース)

情報センターの整備
(<http://www.nbrp.jp>)

第1期(平成14年度～平成18年度)



マウス



ショウジョウバエ



線虫



シロイヌナズナ

収集・保存・提供体制の整備
(時代の要請に応えた生物種の追加)

情報センターの強化

第2期(平成19年度～平成23年度)

★目指す方向

中核機関等と研究者コミュニティの協力による、世界最高水準のバイオリソースの整備。

ナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)の推進体制

文部科学省

↑指導・報告

プロジェクト推進委員会

プロジェクト全体の推進方策の策定、普及活動の企画立案。
○平成19年8月16日、平成20年1月22日に開催。
○BMB2007(平成19年12月11日～14日)において、ブース展示を実施。

報告

プロジェクト評価委員会

プログラム実施機関の活動に関する評価。

報告

評価

指導

運営委員会
委員長会議

運営委員会委員長と推進委員によるプログラム実施機関の運営方針の検討。

○平成19年10月26日に開催。

報告

プログラム実施機関

ゲノム情報等整備プログラム

ゲノム解析等、リソースの付加価値を向上させる開発。

基盤技術整備プログラム

リソースの保存技術等を向上させる基盤技術を開発。

解析情報の提供

中核的拠点整備プログラム

ライフサイエンス研究に不可欠なリソースごとに中核機関を選定し、中核機関が中心となってリソースの収集・保存・提供体制を整備。※

開発技術の提供

リソース情報の提供

情報センター整備プログラム

リソースの所在情報や遺伝情報等のデータベースの構築及びホームページを通したユーザーへの広報活動。
※

※運営委員会

各中核機関と情報センターに設置し、ユーザーから意見を聞き、実施体制に反映。

要望

ユーザーコミュニティ

各リソースを使用する研究者集団。

研究成果等の
フィードバック

実験生物/遺
伝子の提供

情報の公開